

を添付したり、取扱説明書に記載したりしてユーザーにリスク情報を提供する。

(2) 記録（帳票の様式、種類等）

設計関係書類とは別にリスクアセスメント書類ファイルとして保存している。

書類としては以下の5種類が用意されている。

記録用紙 No 1 「機械の使用状況の想定」に関する記録用紙(資料 1 参照)

記録用紙 No 2 「危険源の特定」に関する記録用紙(資料 2 参照)

記録用紙 No 3 「リスクの見積もり/評価」に関する記録用紙(資料 3 参照)

記録用紙 No 4 「リスクの再見積もり/再評価」に関する記録用紙(資料 4 参照)

記録用紙 No 5 「リスクの低減と再評価のまとめ表」(資料 5 参照)

(3) リスクアセスメント手法（手順書）を作る際に参考にした基準・規格類

同社が参考にしたものはJISB9702:2000および中央労働災害防止協会の資料並びに制御機器メーカーX社の資料である。

(4) 対象設備のリスクの再評価について 実施する安全対策が、適切にリスクを低減できるものかどうかの妥当性の確認をしているか

最終設計時と実機完成時に設計関係者全員で行っている。

(5) このリスクアセスメント手法（手順書）の範囲には、制御系のリスクアセスメント（JISB9705-制御システムの安全関連部）を含んでいるか？ また、安全性能カテゴリ選択をしているか？

制御システムの安全関連部にはリスクレベルに対応したカテゴリの機器を使用することになっている。

3 具体的な機械設備のリスクアセスメント実施状況と実施内容

3.1 リスクアセスメント実施対象設備：

実施対象設備：ギャングリッパ